

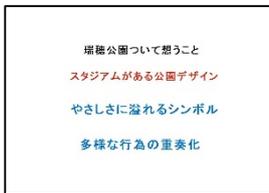


おはようございます。

名古屋工業大学の伊藤でございます。

今日は、私の想いを、ある意味、伝えたいと思って来ました。

20分という短い時間ではありますが、想いが伝わるよう話していきたいと思います。



スタジアムがある公園のデザインと書いてありますが、瑞穂競技場のある瑞穂公園というのは、かなり特徴的だと思います。

アジア大会もあります。

そういった中、どんなデザインの方針を示していけばいいだろうと、私自身も相当悩みました。

ちょっと考えた中で、やさしさに溢れるシンボルと書かせていただきました。

市民にとっては愛着があったり、誇りとなる。そういった場所になるべきだろうと思います。

一方、だからといってすごい造形があるだとか、すごい形があるだとか、何かオブジェ的なものができるだとか、それはちょっと違うかなと思うんですね。

いろんな人たちがここに来て、楽しいな、素敵だなと思いながら、ここが、結果的に愛着が持てたり、誇りが生まれる。

弱者がと言ったら変ですけど、いろんな方々が使われることによって、やさしさがにじみ出てくる、そんなイメージがあるといいなと思います。

また、うちの研究室がいろんな海外の事例だとか、公園だとか、都市だとかを見てきて、分析している中で気付いたことがあります。

多様な行為の重奏化とありますが、恐らく素敵な場所に、みなさん行ったとしましょう。

そうすると、座っているだけって、あんまりないと思うんですね、ベンチでね。

それで、座りながら、本読みながら、コーヒー飲みながら、もしかすると、隣の友達と話しながら、ある時は仕事をしながらスマホを見たりして、SNSでつぶやいたりしながら、前にあるアートを楽しんでみたりとか、もしかしたら桜の花がきれいだなと、ちょっと休憩してみたり、何々しながらというのが、目的や用途に合わせて多様に奏で合う、そういう公園って素敵だなと思うんですね。

結論を言うと、この大きな目標に向けて、今から私はいろんな事例を紹介していければと思います。



まず最初は、愛着と誇り。

やっぱり、名古屋ですからね。

名古屋らしさ、名古屋だからの特徴を出したいじゃないですか。

どうしても金シャチで、ゴールドで、ちょっと派手で、えびふりやみみたいなことばかり言われてて、揶揄される所もありますが、名古屋には、いい文化性だとか、いい価値観とかあると思うんです。

それを何とか顕在化できないか。



ちょっと手前味噌ではあるんですが、名古屋駅にJ Pタワー、KITTE名古屋というのが2016年にオープンしました。こちらの方のデザイン監修を、私させていただいております。



例えば、そのアトリウムに行くと、ゴールドの金シャチがあるんですね。

単純に、こういうアトリウムにベンチだけが置いてあったら、たぶんそれだけの空間なんです。

金シャチがこうあって、その金シャチが8.8m。

金シャチって、皆さんご存知のとおり、オスとメス、いますよね。



そのオスとメスがわかるように、中の構造のDNAが右と左と違うんです。

とか言うと、「へえー」となるでしょ。

この「へえー」と言うつぶやきを、いくつ作れるか。



中のアートや、インテリアの演出や、サインなんかも、名古屋っぽさというのを出すために、いろいろ出てくる。

アーティストやデザイナーの人に、やってもらっている。



さらに、このアトリウムを使うためのソフトウェアまで、もう事前に考えられています。

例えば、あいちトリエンナーレのサテライト会場だとか、やっとかめ文化祭のサテライト会場になる。

こうすると、市民の人たちが活用してくれるわけなんです。

これは手前味噌ですけど、SNSで、ツイッターでハッシュタグを付けて、建物をつぶやくわけなんですよ。

これの全国のベスト5、何だと思えます。

皆さん想像してみてください。

時間が無いので結論だけ言うと、ベスト3に実はKITTE名古屋、入っているんですね。

それくらい、つぶやかれる要素、みんなが話題になる要素を入れるべきなんだと思うんですよね。



そんな中で世界の事例を見ながら、世界に誇れる「らしき」の演出みたいなものを見ていきたいと思えます。



例えば、アムステルダム。

上手いですよね。

「I amsterdam」私は、アムステルダムの住民なんだ。

赤と黒を見ると、テーマカラーがあって、わかりやすいですね。



これが国立の博物館の前に、こういったものがありまして、この前で、みんな写真を撮るわけです。



この写真を、体験価値をしたいために、世界中からみんな来て、これをSNSにあげるわけですね。



ここからずっと引いてくると、池があって、なんとなく博物館を見ながら、その前に芝生の広場がある、公園があります。



周りには、美術館もあって、みんなピクニックのように、くつろいでいたり、楽しそうなんですね。



一方、アムステルダムの駅を見ていきましょう。

駅の屋根の所を見てくと、何か赤い色で模様がある。

一体何を意味しているんだろうな、と思うわけです。



アムステルダムの駅は、実は、船で渡って、対岸に行くことができます。



駅舎全貌を見渡すことができます。



そして、見渡していくと、対岸から屋根の上に「AMSTERDAM」と書いてあるんですね。



なるほど、この「AMSTERDAM」と書いてあるための模様が、屋根に書いてあったんだ。

多分、これは瑞穂スタジアムでも、近くで見ると、遠くで引いて見るのが、あると思うんですよね。



中に行くと、観光案内所がありまして、「I amsterdam」と書いてあります。



黒色で素敵な人たちが「どこから来たの、あなた」って、「アムステルダムってこんないい所よ」って、おもてなしをしてくれるんですよね。



そうすると素敵なグッズも売っていて、私でも欲しくて、いっぱい買っちゃいますよ。

こういう、来てくれる人たちに対するおもてなしや、サービスや、そういったグッズ、こういったものまで連続できるかって、大事だと思うんですよね。



一方、人々が集うって、やっぱり大切じゃないですか。

集うためには、シンボル性ってあるんだけど、そのシンボルが、すごい形になったら、いいのかな。

何か愛着は湧くんだけど、この辺の匙加減って、すごく難しいと思うんですが。



シカゴのミレニアウムパーク。

これは、シカゴの都市の中に、世界で唯一と言ってもいいくらい、一番大きな規模で、屋外型のコンサートホールがあります。

フランク・オー・ゲーリーという有名な建築家が、デザインしているんですね。

ちょっとキッチュな形をしています。



こういった、すごい派手な建築を作れという意味ではなくて。



このシンボライズされた建築の横には、人が集えるような観光名所みたいなものがあるんですね。



これは「ビーンズ」と呼ばれているオブジェなんですが、街がなんとなく、えん曲しながら映り込んでるから、いろんな場所に行くと、楽しい感じがするんですよ。



かつ、中に入っていくと、人が溢れていて、なかなか楽しそうじゃないですか。



また、ちょっと違う視点の所に行くと、オブジェがあって、水が滝のように流れている。



「何だ何だ」と見ていくと、実は、市民の千人の顔が出てくるんですね。



市民の人たちの前に水があって、ある時間になると、水がビューっと出てくるんですね。  
こうなると、子どもたちが、すごく喜んで、遊んでいるんですよ。



こういう、遊ぶような所があって、すぐ隣には、だいたいカフェテラスみたいなものが、あるんですね。



こういう、レストランみたいなものがある。



みんな集っているわけですよ。



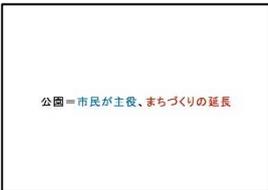
もしかすると、瑞穂公園の中にも、小っちゃいボックスがあって、季節がいい時には、外にテラスなんか張り出してきて。



ある時はショップになったり、レストランになったり、バーになったり、必要に応じて変化していく。



こういう仕掛けがあっても、いいかなと思うんですよね。



さあ、公園の話に行きます。  
公園って、どういうことが大事なのかなと。  
恐らく、使う市民の皆さんが、主役ですよ。  
それと、公園は公園という領域を明快に作っては駄目だと。  
公園のその領域が、いかに街とにじみ出てきて、街と繋がるか、ということが、とても大事だなと考えております。



久屋大通公園、今ちょうど工事をしています。



ここですね、我々、2012年からソーシャルタワーマーケット、公園を社交の場のようにしていこうと、テレビ塔というシンボルを中心にしながら、市民が参画できるマーケットを運営していこうと、こんなことをやりました。



これを10月にやるだけで、2日間で10万人以上の人たちが来ます。



どんなものかという、素敵なマーケットの空間があるんですよね。日曜日の、お茶しながら楽しめて、買い物もできちゃうみたい。



重要なのは、ボランティア的に、こういうマーケットをやっているか  
という、そうじゃなくて、ちゃんと収益も、あがっているんです。  
一店舗なんかは、いくらぐらい、みなさん、儲かりそうだと思います？  
一番売れている所、今2千万です、朝から大行列みたいな、そんなこと  
をやっています。



実際に体験したり、クラフト作ったり、参加したり、食べたり、いろ  
んな行為が生まれています。



そんなところで、音楽のライブステージのようなものがあったり。



夜の演出も大事です。

何か居心地がいいな、と思えるような演出、ちょっとしたキッチンカ  
ーがあったり、ちょっとワインが飲めて、ちょっとホットドッグ食べ  
ただけで、全然雰囲気が変わるんですよ。



それに併せて、もしかしたら沿道の、ないしは駅からスタジアムまで  
行く途中とか、こういった所にも、ちょっとした演出があつたらいい  
とか、朝市でちょっと野菜が買えるようなマーケットが出ていると  
か、キッチンカーが出ているとか。



アダプトガーデンといって、市民の人たちが、花を咲かせるために、  
種を植えて育てていく。

こういった場所が、あつた方がいいと思うんですよ。



公園っていうのは、市民の方々が主役ですよ、と話をしました。

主役ですよ、ということは、その使う人が、みんなが、いろんなスタ  
イルで楽しめる、楽しみ方がいっぱいある、そういった選択肢が、い  
っぱいあるような設えを作るって、すごく大事だと思うんですよ。  
例えば、どういうふうにしていけばいいのか、という一例ですが、ニ  
ューヨークのブライアントパーク、これを見ていきます。



ブライアントパークは、入っていく所からですよ、街の。



マンハッタンのど真ん中ですからね、そういうところに、ちっちゃい、かわいらしい店舗があって、その店舗の横断歩道に近いところでも、人がいるわけですよ。



こういう所を、くぐり抜けて入ってくると、一人でも、グループでも、もしかして、カップルでも居れるような。



素敵なカフェとともに、カフェの所でお茶をしたり、何か食べたい、レストラン的に食べたいというんだったら、テラス席みたいなところは有料で使えるとか。



公園の中に、素敵な一人で佇みながら、ちょっとスツールみたいなものになっていて、だいたいどこでも充電ができるように差込口があって、そんな配慮なんかもされてたり。



その自分の過ごし方みたいなのを見つけながら、というのは、大事なと思うんですね。

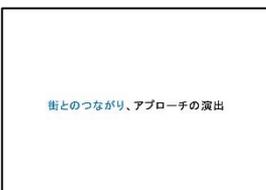


スポーツ公園でもないのに、卓球している人とかもいるんですよ、卓球場があったり。



またですね、本とかも置いてあってですね、自分で見る、ちょっと図書館的な機能もあるわけですね。

そうすると、瑞穂公園に例えると、スポーツをしながら、練習したり、楽しみながら、もしかしたら、図書館の本とかも一部分返せたり、そこで借りれたりとか、そんな仕掛けがあると、すごくいろんな使い方が、皆さんイメージできるんじゃないかと思うんですよ。



街とのつながり、アプローチの演出

街の延長が、公園だって話をしました。

街との繋がるアプローチって、大事だと思うんですよ。

どこから公園に入っていくんだろうなという、だいたい公園って、

危ないからって、すごい石垣があったり、変に防御されているというか。

駅から道路までも閑散だと、あんまり楽しくないじゃないですか。こういった意味で、道路の演出も、本当は、名古屋市さん、頑張っしてほしいな、そういう思いもあります。



例えば、アメリカのユニオンスクエアなんかを見ていくと。



これは、車道部分の一部分を、歩道化というか、広場化しているんですよ、広場的に使っている。

ちょうど行った時、朝だったんですけど、朝のモーニングの集いみたいな感じですね、名古屋で言うと。

おじいちゃん、おばあちゃんたちも来て。

ここにあるベンチだとか、椅子とかの設えというのは、自由に自分で動かして使っていいわけですよ。

一人でくつろいでいる人もいるし、グループで輪になって使っている人もいる。

かつ、管理されているのがそのまま置いてあります。

でも、誰も持っていかないし、誰も壊したりもしない、悪さしない。こういうところの管理運営を、街全体でやってくという姿勢も、大事ですよ。



どうしても、日本だと、危ないからといって、ガードレールみたいなもので、すごく覆っちゃって、不細工になっちゃう。

これなんか、大きな花壇？花瓶？こういったものを置いてあるだけなんですよね。

そういうところに、おばあさんがずっと座っていて、そこのところに私が行った時には、テントウムシが飛んで行ったんですね。

なんか素敵なワンシーンだな、と思いました。



こういった道路の演出が、そのまま公園と同じ設えになって、公園に繋がっている。





土日とか祭日になると、マーケットなんかがあって、素敵な雰囲気を醸し出しているんですね。



例えば、瑞穂公園だったら、スポーツイベントなんかも、こういうことをして、街全体で賑わいが生まれてくる、そんな祝日や休日があっても、いいじゃないですか。



またですね、山崎川、それと、いろんな史跡もありますよね、古墳の跡地だとか。

こういったものを隅っこにおいて、なんとなく、こういうものがありますよって、サインが置いてあるだけって、ちょっと悲しいじゃないですか。

やっぱり、折角ある資源ですから、その資源と近いところ、身近に感じれる、そういう体験価値を、上手く演出したいですね。



例えば、これはブルックリンの方になるんですが、ニューヨークでも。元々、砂糖を製造する工場があったんです。

これが、工場が廃工になっている。



これを上手く活かして、ちょうど川の水辺の所を繋ぐように、公園を作られています。



こういった、霧のようなものが出てきたり、同じように水辺があって、子どもたちが楽しめるようになっていて、その周りに少し腰掛けたりしたり、ランチができたりするような場所があったり。



もうちょっと奥に行くと、子どもたちの児童公園的なものとか、レストランがあったりするんですね。

こういった、児童公園的なものと、砂糖工場の跡地みたいなものが、一緒に並んで、川場というか、水辺を体感できる、このシームレスな繋がりみたいなものが、大事だなと思いますし。



イタリアのミラノ、ミラノサローネといって、だいたい春口に、春時期に、世界で一番の家具の見本市展というのがあるんですね。

その時に、いろいろインテリアだとか、家具のメーカーからショールームが出てきて、街の中で見ることができます。



これを、古墳だとか、史跡だと思ってください。

そうすると、何かファミリーでとか、子どもたちが遊んでいると、「あっ家具にも見えた」とか言って、家具の中に入っていったり、「インテリアなんだ」というのが狙いなんですよ。

ということは、古墳だから古墳見てください、というよりは、さりげなく、みんなが集うような場所を作って、そこに古墳があって、子どもたちがいると「古墳なんだこれ」と気付いちやうみたいな、そんな仕掛けになると、いいなと思います。



さあ、今、公園を主に、話してきました。

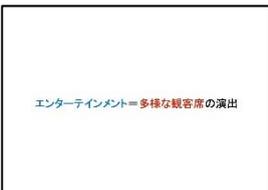
親しみだとか、安らぎだとか、憩いだとか、街との繋がり、みたいな話をしてきましたが、一方、競技場、スタジアムがあるというのが、この瑞穂公園の特徴でもあります。

スタジアムというと、高揚感だとか、臨場感だとか、没入感だとか。あるロンドンの、イギリスの研究所のデータを見たんですけど、サッカーとかを没入すると、確か、ガンの発症率が、例えばナショナルチームが負けちゃった、とかいうと、ある国の人たちは、それでショックを受けて、それだけで健康状態が悪くなる、なんていうデータがあるんですね。

それくらい、没入感が必要なんです、高揚感とか。



普通、スタジアムというと、こういう感じで、今回も3万席に近い席が要求されてますから、画一的なスタジアムになっちゃうのかなと、これは、ちょっとさみしいなと、一方、思うんですよ。



できれば、エンターテインメント性って、大事じゃないかな。

見方って言っても、鑑賞の仕方にしても、多様なあり方って、あるんじゃないかと。

アメリカの、今回、事例なので、サッカースタジアムや野球スタジアムだとか、いろいろ今から見せます。

全部が全部、活きるわけじゃないですが、少しでも、そういう楽しい要素があったら、スタジアムのあり方って、変わるんじゃないかな、と期待したいところなんです。



例えば、スタジアムの中にお店があって、お店越しに観客席があるとかね。



そうすると、お店で食べたり、飲んだりしてる人もいて、「今どうなってるの」と見に行くとかね、そんなこともできたり。



単純に座っているだけじゃなくて、グループで来た人たちが、グループで一緒になって、わいわいできる。



こういう場所が、あっても、いいじゃないですか。  
ちょっとラウンジ的になっていて、仲のいい人たちがめっちゃめっちゃ盛り上がるみたいな、こんなものがあってもいいかもしれない。



またですね、スタジアムを作ると、デッドスペース的なところもできると思うんですよ。  
デッドスペース的な所を、あえて、お店にしてしまおうとか、スタンディングで見せれる場所にするだとか。



ある意味、ビールメーカーや飲食メーカーなんかとね、一緒になって、いろんな席を作ってみたり。



多様な楽しみ方を作ったりするっていうのも、いいと思うんですよね。



確かに、座って見てるとか、立って見てるだけでも、飲みながらとか、ラウンジのような所があって、ボックスシートみたいになってるとか、好きな人、友達同士、家族だけでっていう、そんな多様な見方を許容できるようなスタジアム、そんなのがあったら、素敵じゃないですかね。



またですね、観客席と試合のことだとか、競技を見るというのは、没入感だとか、見方も大事だと思うんですけど。  
コンコースの部分って、もうちょっと、街と繋がってもいいんじゃないかな、公園と繋がってもいいんじゃないかな。  
例えば、公園とスタジアムの輪郭だとか、公園と街との輪郭というの

を、いかに融和して、いかに繋げていけるか、そういう仕掛けを作っていくかって、大事な気がするんですね。



このスタジアムなんかは、中に入っていくと。



ある意味、ショッピングセンターか商店街みたいなお店がこうあって、お店の中を楽しんでショッピングしていくみたいな、そんな演出があったり。



またですね、コンコースの部分が、ある意味、街に開けている、こういう所で休憩したり、ある意味、公園と繋がっていたりする。

素敵じゃないですか。

そうなってくると、スタジアムの外形の部分というのは、もしかしたら、立体的な公園と捉えると、また何か、可能性も広がるのかな、と思ってみたりして。



例えば、ニューヨークにハイラインというのがあります。

元々鉄道が走っている所を、廃線になってしまったので、その上部空間を公園化していくということで、できているんですね。



そうすると、立体的な、公園的なものがあるって、こういう所からスタジアムに入っていく、公園とも繋がってる。

勝手に想像したりしながら。



この人たち、すごい一生懸命、街の方をみてるんです。

何があるのかなと、私も覗いたんですけど、別に何が、不思議なものがあるわけでもなくて、単純に街の雰囲気を見ている、くつろいでいる。

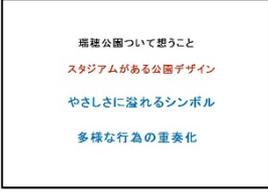
こういうのがいいのかな。



山崎川が、ふーっと見えるとか、スタジアムが見えるとか、街並みが見えるというのを見ながら、いろんな多様な何やらしながら、ここで居心地のいい場所、スタジアムと街と公園が繋がってくるんじゃないかな。



実際に、そういうスタジアムもありまして、観客席と外の空間が、非常に近い。



そうすると、試合って競技が始まる前の盛り上がり、仮にグランパスが負けたからって、負けた後もやっぱり盛り上がったり、悲しんだり、みんなで飲んだり、楽しんだりしたいじゃないですか。

そういうような空間も、公園と一体となったスタジアムと考えたら、あり得るんじゃないかな、と思うんですね。

さあ、こんなことを勝手に、キーワードを拾いながら、私の想いというか、考え方というのを、ちょっと示していきました。やっぱり、誰が主人公であるかというのを、本当に考えてほしいなと思います。

やさしさに溢れるというのは、それぞれ使う人たちの、その人たちのことを考えて、デザインをしていけば、きっと、すごいパスでは、カッコいいんだけど、それは、すごい素敵かもしれないけど、使ったら使いにくいとかね、すごい形しているんだけど、作ろうとしたら、めっちゃお金がかかったとか。そうじゃなくて、やっぱり、みんなが使うことによって、やさしさが溢れることによって、結果シンボルになって、愛着になって、誇りになる。

そして、多様な使われ方、何々しながら、街との連続で何か憩いながら、没入しながら、臨場感もあって、仕事もしちゃうみたいな、そんな多様な行為が奏である、そんなスタジアムと空間のある、ここだけしかない空間になることを、私自身は期待しております。

ということで、20分になってしまいました。

私の講演を終わらせていただきます。

どうも、ご清聴ありがとうございました。